

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」 令和元年度進行管理結果（概要）

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」は、平成25年度～令和2年度までの8カ年の計画であり、令和元年度は第7年次にあたります。

施策中心の評価を行う上で、指標は県の取組の成果を示すものであり、県の施策は、指標の値の改善を目指して展開されることから、「政策分野別主要施策に掲げる指標一覧」（資料3）を、計画の礎「人と地域」と3本柱「活力」「安全・安心」「思いやり」毎に平成30年度（前年度）との比較を行い、傾向等を整理しました。また、「政策分野別主要施策評価調書」（資料1）における課題等を踏まえた方向性を記載しました。

さらに、県の施策に関連する項目について県民の意識を測るものとして、県政世論調査を活用した意識調査を毎年度実施しており、「意識調査項目一覧」（資料5）では、平成30年度（前年度）及び平成25年度（計画開始年度）との比較を行い推移・傾向を整理しました。

現在の福島県総合計画「ふくしま新生プラン」は、令和2年度に計画期間の終期を迎えることから、施策及び指標については、現計画期間内の着実な推進を図るため、PDCAのマネジメントサイクルによる事業の実施・改善を図り、進行管理を引き続き行っていくとともに、各政策分野別の課題を踏まえ、新たな総合計画の策定に際して、施策構築の参考とすることとします。

（1）指標による分析

全指標254項目のうち、数値目標を設定した167項目の目標年次における達成率の比較では、A評価（100%以上）、D評価（70%未満）が微減し、B評価（80～100%未満）、C評価（70～80%未満）が微増で前年度と大きな変化はありませんでした。

| 評価 | A | B | C | D | 計 |
|-------|----|----|----|----|-----|
| R元年度 | 55 | 67 | 17 | 28 | 167 |
| H30年度 | 58 | 63 | 16 | 30 | 167 |
| 増減 | -3 | 4 | 1 | -2 | 0 |

なお、礎と3本柱毎の内訳は以下のとおりとなりました。

| 評価 | 人と地域 (43指標) | | | | 活力 (61指標) | | | | 安全・安心 (44指標) | | | | 思いやり (19指標) | | | |
|-------|----------------|----|----|----|--------------|----|---|----|-----------------|----|---|---|----------------|----|---|---|
| | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| R元年度 | 14 | 24 | 2 | 3 | 24 | 22 | 4 | 11 | 15 | 13 | 9 | 7 | 2 | 8 | 2 | 7 |
| H30年度 | 14 | 21 | 4 | 4 | 25 | 19 | 4 | 13 | 17 | 14 | 7 | 6 | 2 | 9 | 1 | 7 |
| 増減 | 0 | 3 | -2 | -1 | -1 | 3 | 0 | -2 | -2 | -1 | 2 | 1 | 0 | -1 | 1 | 0 |

「人と地域」：次世代育成支援企業認証数や、育児休業取得率（男女とも）が目標値を上回る（A）一方、保育所入所待機児童数（D）や合計特殊出生率（前年より低下）などを踏まえ、引き続き、安心して結婚・出産・子育てできる環境整備、支援体制の充実を進めていく必要があります。

「活力」：他に比べてA, B評価が多く、前年度比でも割合が高くなっています。観光関係の指標は回復傾向であるものの、インバウンド等全国の比較ではより一層の対策が求められます。一方、沿岸漁業生産量（試験操業を含む）（D）など、新たな計画の指標設定においては検討を要するものもあります。

「安全・安心」：前年度比でA, B評価の指標数が減っています。市町村の計画に基づく住宅除染は事業が完了した（A）一方、避難行動要支援者避難支援個別計画の策定市町村数（D）など、新たな支援策等により施策を推進する必要があります。

「思いやり」：自然公園の利用者数、猪苗代湖におけるCOD値（ともにD）など他に比べてD評価の割合が多くなっています。本県の豊かな自然環境の保全と継承と環境教育の推進による自然と触れ合う機会の増加などの取組を進める必要があります。

（２）意識調査による分析

前年度との比較では上昇（11）と下降（11）が同じ項目数となりました。

計画開始年度との比較では、上昇（18）が下降（4）を大幅に上回っています。なお、礎と3本柱毎の内訳は以下のとおりとなりました。

| | 人と地域 (6項目) | | 活力 (6項目) | | 安全・安心 (6項目) | | 思いやり (4項目) | | 合計 (22項目) | |
|--------|---------------|----|-------------|----|----------------|----|---------------|----|--------------|----|
| | 上昇 | 下降 | 上昇 | 下降 | 上昇 | 下降 | 上昇 | 下降 | 上昇 | 下降 |
| H30→R元 | 1 | 5 | 5 | 1 | 5 | 1 | 0 | 4 | 11 | 11 |
| H25→R元 | 4 | 2 | 5 | 1 | 6 | 0 | 3 | 1 | 18 | 4 |

（※「復興」に関する項目については、計画開始年度との比較ができないため含めない。）

<前年度比>

最上昇項目「医療：身近なところで、必要な医療を受けることができる地域に住んでいる」と回答した県民の割合（66.6%⇒74.8%, +8.2%）」

最下降項目「自然環境等：福島県は自然が豊かで、美しい景観を有する県である」と回答した割合（92.3%⇒85.3%, -7.0%）」

なお、±5%以上の変動があったのは6項目（+3、-3項目）

<計画開始年度比>

最上昇項目「原子力災害対策：放射線から安心できる生活空間で暮らしていると回答した県民の割合（33.3%⇒66.0%, +32.7%）」

最下降項目「低炭素・循環型社会：日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っている」と回答した県民の割合（58.4%⇒48.9%, -9.5%）」

なお、計画開始年度比20%以上上昇した項目は4、10～20%未満が2項目0～10%未満が12項目、0～-10%未満が4項目となっています。